

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 59 号

2006 年 12 月



磐梯熱海ケヤキの森観察会

11月26日(日)に本宮・大名倉山と磐梯熱海ケヤキの森の観察会を実施しました。参加者は21名でした。今回は公的機関による自然遊歩道の整備のあり方がテーマでした。大名倉山は「東北自然歩道」(身近な自然地域や、景勝地、史跡などをむすぶ自然歩道として都道府県単位で整備されている)として本宮町岩根を起点に大玉村午房内までに設置された安達太良の里を訪ねるコースの中核となる山です。しかし、周辺は伐採やフェンスに囲まれ重機で地ならしされた空き地等が目立ちお世辞にも自然度が高いとはいえないものでした。「ケヤキの森」の方は温泉地に隣接している森としては信じられないほど自然度が高く、ケヤキの姿にも長い間、里の人々と深い係わりを維持してきた様子が刻まれていました。温泉地の近くであるためやむを得ない側面もあると思われませんが、過剰整備と思われる一面も見られました。



植生では、大名倉山ではカラマツソウ、ツチグリ、山頂でのミズナラの芽生えなどが印象的でした。「ケヤキの森」ではリョウメンシダ、ジュウモンジシダ、ミヤマイタチシダ、トラノオシダ、タニワタリ等の豊富なシダ類や珍しいカエデの仲間のチドリノキの壮木なども観察されました。



カラマツソウ

観察会に友達を誘って参加しました。なかなか参加できずやっと2回目の参加となりとても楽しみにやってきました。小野川湖畔のトレッキングは昨年小学2年生だった孫が叔父・叔母と散策したと聞いていたのでどんな所かなと思って歩きました。今回の散策ではいつも気にしないで歩いてしまう道でも花・草・木をよく眺めて歩くのはとても楽しいものだというをしみじみ感じました。また、目新しい草花が目の前に現れるとすごく嬉しい気持ちになりました。この草花にあった時名前を思い出したら最高ですね。小野川大滝も知ってはいたのですがなかなか訪れることが出来なかったので大変感激いたしました。大変素晴らしく身が清められるような思いで友達と感動しました。観察会の帰り足を伸ばしグランドエコ平へ行きヨツバヒヨドリに集まるアサギマダラを見てきました。また、時間がある限り参加したいと思います。本当にありがとうございました。



阿部正子

今度で4回目の参加でしたが皆様の知識の広さにはいつも感心しています。頂上だけを目指した山登りをしていましたが、皆さんと出会えたおかげで花や樹木の美しさを鑑賞しながらゆっくり歩く楽しさがわかってきました。これからの私にピッタリです。今後ともよろしく願いいたします。今回名前のわかったヌスビトハギ・ツリフネソウ・ジャコウソウよくみると不思議な形・美しい色合いに改めて感激しました。エゾアジサイは見つけることができませんでしたのでこれからはもっとゆっくり歩いて観察したいと思います。天然クーラーの不動滝はステキでした。自然の豊かさを感じホッとしました。いつも忙しく過ごしているものですから故郷に帰ったような元気をいただきました。移動中の車の中で聞いたアサギマダラを解散後見に行きました。とても綺麗な蝶でした。教えてくださった方ありがとうございました。又「あづましずく」のぶどうとても美味しかったです。ご馳走様でした。

回顧2006 高橋 淳一

【記念碑】

2002年から実施してきた鳩峰牧場跡地の植林は、森林管理署において林地復元が承認され、JA山形おきたま様の土地償還が2005年に完了したことから、山形側の協力団体として、植林作業に取り組んでこられた「まほろば登山愛好会」の手によって「記念碑」が建立されることとなり、当会の名も記していただけることとなった。除幕式に出席の折、目にした記念碑は「共生の碑」と名付けられ、森の復活、そして動物と人間との共生の願いが込められていた。「戦前は夏になると牛を引き連れ、峠まで登り、草を食ませた場所であったことから放牧地として開発したが、役目を終れば元に戻さなければ」といった関係者のやさしい眼差しが印象的であった。



【森林生態系保護地域設定委員会】

今年1月、関東森林管理局の担当者から電話が入った。「会津地域の森林計画策定に伴い、森林生態系保護地域設定等の設定委員を依頼したい」以前より、会津地域の森林計画に対しては、意見提起をしてきただけに、2つ返事でOKし、設定委員会に望むこととなった。2月24日の第1回から最終8月10日の計4回（内1回は現地視察）の委員会、現地視察を経て、会津地域約20万ヘクタールの半分以上が「森林生態系保護地域」、残りが「緑の回廊」に設定されるなど森林保護の観点からは画期的な結果となった。この中には、吾妻連峰や飯豊連峰の拡張も含まれており、現地調査を踏まえた具体的提案によって当初予定面積をさらに530ヘクタール余を追加拡張できたことは大きな成果であった。特に、観察会で何度訪れた中吾妻中腹、二十日平のブナ林およそ115ヘクタールについては、10年来の念願であった。また、12月6日まで実施された、これら森林計画の公告縦覧においては、さらに踏み込んだ保全計画が表明され、禁伐的な扱いの森林は全体の50%、「奥会津」「飯豊」「吾妻」の3森林生態系保護地域の92,910ヘクタールを含め、102,500ヘクタールがその対象となることがほぼ確定した。

【熊たちの災難】

木ノ実の不作、里山の手入れ不足、個体数の増加、習性の変化等々、頻発した熊の出没に対して、様々な意見が飛交った。捕獲数は全国で5千頭を超え、死者3名を含む150件近い人的被害が発生したと

報道された。勿論、捕獲された個体のほとんどは、処分ということで殺されている。正確な生息数は不明だが、ヒグマ、2千頭前後 ツキノワグマ、1万頭前後と推定されている。

これらの数字から、福島県を始め他県の一部には、狩猟期間中の自粛を要請する動きもあるが、出没しただけで捕獲、処分というのは哀れな話である。地域によっては行政や民間団体によって生息調査や捕獲後の奥山放獣等が実施されているが、ごく僅かである。

推定生息数の40%以上の捕獲は絶滅を招くとの専門家の指摘もあるが、「熊は怖い」と言うのが多くの日本人の熊の印象であり。このことが結果とし捕獲、処分という方向に向かわせているのである。しかし、捕獲された個体中、人的被害に及んだのは僅か3%程度であり、多くの熊たちは無実か、軽度の過失ということではないだろうか。人間であれば、よほどの凶悪事件でない限り、死刑となることはないが、言葉を持たない熊たちには弁明も更生の機会を一切与えられないのである。人間社会においては、「声無き声に耳を傾けよ」と言われるが、熊たちの行動が「声無き声」だとすれば、それは、温暖化等に代表される、大きな環境変動の前兆とも言える警告ではないだろうか。

東北自然保護の集い・青森集会参加報告

高橋 淳一

「第27回東北自然保護の集い・岩木山大会」が9月16日・17日の2日間にわたり、津軽富士と称される岩木山の山麓、百沢温泉「あすなる荘」で開催された。

集会は1日目に幹事団体である地元「岩木山を考える会」会長の阿部東氏による記念講演「岩木山の自然から・種の多様性と保全」に続き、地元青森県の6名から下記の7テーマの発表、報告が行われた。今回の会議では、これまでとは若干、趣向変え、助言者のコメントを戴く手法が採られ、秋田「白神山地のブナ原生林を守る会」奥村清明氏、青森「下北野生生物センター（民間）」森治氏がその任を勤めた。この中で、特に印象に残ったのは、阿部氏の記念講演で、内容は岩木山にまつわる話題から国内外の自然保護、そして、本題の遺伝子の多様性と多岐わたる内容であった。また、ユーモア溢れる語り口で聴衆を惹き付ける巧みな話術も内容以上に魅力的に感じられた。

2日目、前日に引き続き、県内外各地からの報告（下記）が行われ、最後に全体討議、大会アピールで締めくくられた。筆者も福島県の唯一の参加者として、会津地域の森林生態系保護地域設定に関する報告の他、博士山ブナ林を守る会が原告として戦った林道訴訟他、県内の話題について報告を行ったが、トップバッターとして報告した岩手県の望月氏からの青森下北半島や北海道松前半島におけるブナ林の大量伐採問題については、会場内からの緊急アピール提起などの具体的な行動の動きが無かったことが残念であった。また、この件については筆者自身にも責任があることから、後日、青森県の関係者へ事実確認と具体的な行動の要請を実施した。

最後に、来年28回大会は岩手県での開催となる、「カタクリの会」瀬川氏、「和賀川水系の自然を考える会」永田氏、「花巻のブナ原生林に守られる市民の会」望月氏が中心となり、運営に当たられる。盛会となるよう協力していきたい。

「各地からの報告」

1. 青森市横内水源地の植樹問題（青森市がミズナラを伐採してブナ植林事業の実施）：青森の自然を考える会（棟方 啓爾氏）
2. 白神山地に関する問題（赤石川の発電ダムによる水量問題他）：赤石川を考える会（中濱 和夫氏）
3. ブナの植林事業（ブナ苗木の育苗手法の確立と環境長官賞受賞）：白神山地を守る会（今 正博氏）
4. 自然再生活動・森林環境教育について：東北森林管理局白神森林環境保全ふれあいセンター（原田 正春氏）
5. 南八甲田山の無断伐採問題（繰返される登山道の無断伐採）：岩木山を考える会（三浦 章男氏）
6. ラムサール条約と仏沼の現状と課題（オオセッカ生息環境の保全策）：弘前野鳥の会（小堀 英憲氏）
7. 岩木山弥生スキー場予定地跡地問題（中止されたスキー場予定地の森林復元）：岩木山を考える会（三浦 章男氏）
8. 下北半島、松前半島におけるブナ伐採（薬研温泉・恐山の伐採状況）：花巻のブナ原生林に守られる市民の会（望月 達也氏）
9. 津軽半島におけるニホンザリガニの分布と生態（分布調査報告）：五所川原農林高校（奈良岡 隆樹氏他学生）
10. 仙台市周辺における現状報告（泉ヶ岳の保護取組み）：仙台のブナ林と水・自然を守る会（秋田 泰治氏）
11. 朝日連峰における諸問題（環境省非難小屋計画を林野庁が中止）：出羽三山の自然を守る会（長南 厚氏）
12. 日本勤労者山岳連盟の自然保護憲章策定報告：日本勤労者山岳連盟（三浦 章男氏）
13. 山岳ガイド業務の問題点（事故発生時の責任・補償問題）：みちのく花見遊山の会（高橋 仁志氏）



岩木山



講演する阿部東氏

高山の原生林を守る会 2006年度定期総会報告

2006年11月26日(日) 午後13:30~15:30 ユラックス熱海

(1) 2006年度活動報告

期日	内容	参加人数
1月24日(火)	第1回会津地域森林生態系設定委員会(福島市:テレサ)	1
2月5日(日)	第81回観察会 水林公園冬の自然林観察会	20
3月16日(木)	会津森林生態系設定に関する要望区域検討会議(幹事)	1
3月25日(土)	会津森林生態系設定に関する現地調査(安達太良山周辺)	1
3月27日(月)	会津地域森林生態系保護地域設定に関する要望書提出	
4月23日(日)	第82回観察会 水原川春の花・笹森山自然林観察会	32
5月31日(水)	第2回会津地域森林生態系設定委員会(只見町)	1
6月4日(日)	第83回観察会 水源の森復元ボランティア	28
6月17日(土)	会津森林生態系設定に関する現地調査(西会津町:高陽山周辺)	2
7月2日(日)	第84回観察会 西大巔・誘導ロープ補修ボランティア(中止)	
7月10日(月)	会津地域森林生態系保護地域設定に関する要望書提出	
7月23日(日)	会津森林生態系設定に関する現地調査(喜多方市:赤崩山周辺)	1
7月30日(日)	西大巔・誘導ロープ補修ボランティア	3
8月10日(木)	第3回会津地域森林生態系設定委員会(福島市:グリーンパレス)	2
8月27日(日)	第85回観察会 小野川探勝路観察会	23
9月16日(土)	第27回東北自然保護のつどい「青森弘前集会」	1
10月30日(月)	鳩峰峠植林事業記念碑除幕式参加(高島町)	1
10月22日(日)	第86回観察会 西吾妻・早稲沢遊歩道紅葉観察会	17
11月5日(日)	高山地滑り箇所現地調査	1
11月10日(金)	国有林野保護巡視員登録に関する協議(福島森林管理署)	1
11月26日(日)	第87回観察会 磐梯熱海けやきの森観察会・総会	21

(2) 2006年度会計報告

収入の部

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 B-A
前期繰越金	186,684	186,684	0
会費	35,000	39,000	4,000
観察会参加費	34,500	33,900	-600
書籍販売	0	15,600	15,600
カンパ	0	0	0
謝金等	0	30,000	30,000
その他	0	10	10
小計	69,500	118,510	
合計	256,184	305,194	49,010

支出の部

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 B-A
会議費	10,000	3,830	-6,170
郵送費	40,000	28,700	-11,300
観察会経費	15,000	2,536	-12,464
交通費	20,000	0	-20,000
苗木購入費	25,000	42,000	17,000
保険代	33,000	34,690	1,690
渉外費	10,000	20,000	10,000
雑費	20,000	0	-20,000
予備費	83,184	9,000	-74,184
合計	256,184	140,756	-115,428

平成18年度決算額 164,438円(次年度繰越金)

(3) 会創立20周年記念事業

2007年は会創立20周年の節目の年であり、記念事業を実施する。

※1 20周年記念会報:発行時期6月号として16~20ページ予定(会員に特別寄稿を依頼する)

※2 20周年記念写真展:開催時期11月、予算10万円(テーマは、後日検討する)

(4) 2007年度新役員

代表:高橋 淳一 事務局:佐藤 守 会計:山内幹夫 会計監査:野中 俊夫
会報:佐藤 守、奥田 博、鈴木 勝美 幹事:役員全員

植物和名考 (3)

河上 遼治

- 12 カバザクラ (ウワミズザクラ、ヤマザクラ) ばら科 サクラ属
 樺桜
 語源： 樹皮を樺細工や曲げ物を縫い合わせるのに用いた。
 万葉集「桜皮 (かには) まき作れる船」(山部赤人) が見られる。
 アイヌでは樺と桜を同類とする。「カリンパ」は樺や桜の樹皮の事。
- 伊勢神宮を始めとする神社、檜御殿と呼ばれる和式豪邸、贅沢な檜風呂など、日本の高級建材である檜とその仲間について。
- 13 ヒノキ ひのき科 ヒノキ属
 檜
 牧野： 「火の木」の意 大昔木をこすって火を起こした。福島県以南
- 14 アスナロ (ヒバ、アテ、羅漢柏、シロビ、アスヒ、) ひのき科 アスナロ属
 翌檜
 広辞苑： 明日は檜になろう
 牧野： 明日は檜になろう、は俗説。アス→はっきりしない意 (アテ) ヒ→ヒノキ
 語源： 葉が檜に対して厚いところから、厚檜 (あつひ) が訛ってアスヒになった。
 厚葉ヒノキ
 * 「あすなる物語」 井上 靖著
- 冬山の景観は針葉樹林にある。枝葉に積もった雪、樹氷、吹雪の中でも風を遮る樹林帯。
- 15 モミ (さなぎ) まつ科 モミ属
 樅
 * 「樅の木は残った」で知られている。
 牧野： 語源明かでないが、芽富に由来の説もあり。
 語源： 朝鮮のトウシラベを朝鮮語で munbi (紋樅、紋檜) と云い、日本の似た木を渡来人がそのように呼びそれが転じたか。
- 16 シラビソ (シラベ、リュウセン) まつ科 モミ属
 白檜曾
 分布は吾妻山系以南
 牧野： 白ヒノキの意で、葉の裏が白く重なり合うから。「そ」は不明 福島県から和歌山県
 語源： 牧野の説は誤り。シラビソとヒノキは似ていない。「ひ」と「そ」を分けるのではなくて、「ひそ」として考える。「ひそ」は「檜楚」が本字か。楚 (スハエ) は真っ直ぐに伸びた小枝。「檜楚」は三寸方の角材で、これを屋根材に用いた。ヒノキの代用にシラビソを使用し、樹肌が白いところからシラビソと称したのではないか。「ヒスハエ」が詰まって「ヒソ」になったか。
 リュウセン (龍髯) 枝葉の姿を龍の髯にたとえる。
 広辞苑： ヒソ (檜楚、檜曾) 二、三寸角の角材
- 17 オオシラビソ (アオモリトドマツ) まつ科 モミ属
 大白檜曾
 牧野： シラビソに似て球果が大きいから。
 語源： アオモリトドマツを主にしてオオシラビソを別名にしている。
- 18 ツガ (トガ、ツガマツ) まつ科 ツガ属
 梅
 牧野： 語源不明。福島県から九州
- 19 コメツガ まつ科 ツガ属
 米梅
 牧野： 葉が小型である。



樹木の和名を調べてみて、その語源の雑多さ、当て字、命名の適当さが分かった。

いつか新聞でいわきの方だったか、「びゃっこい」と云うカヤツリグサ科(?)の植物を保護している記事が出ていました。いかにも田舎くさい名前、で、「ひゃっこい」が濁ったのかと思っていたらその後で、この地だけの希少植物で牧野富太郎が白虎に因んで命名したとの記事を目にしました。会津の白虎隊ならいわきも会津も同じ福島県で、白河以北一山百文の見方からすれば同一地域なのでしょう。

また樹木には福島県、特に吾妻山系を南限、北限とするものが多く、観察会で説明されていることだが改めて貴重な地域であることが再認識されました。

東北ブナ紀行（24）

奥田 博

八甲田山麓に広がるブナ林は有名である。どこをとっても二次林が多いが、とにかく粒が揃っている。急な登りもなく、ただただ森を楽しめる点は優れている。その中でも蔦温泉上部の道は、不明瞭な分、森を彷徨している気分が味わえる。しかし本当にさ迷うことのないように注意したい。

45) 南八甲田・松森

八甲田山麓に広がるブナ林は有名である。どこをとっても二次林が多いが、とにかく粒が揃っている。急な登りもなく、ただただ森を楽しめる点は、優れている。

蔦温泉の北側のバス停「仙人橋」から歩き出す。車道から急坂が始まるが、すぐに伸びやかなブナ林となる。森には人の手が入っているが、それでも母樹が適当に残っており、アクセントになっている。緩い登りの後、ブナに囲まれた赤沼に到着する。沼の向こうには赤倉岳の山容が、優しいラインを見せている。

ここからは、奥の道は所々ヤブに覆われて、登山者は少ないように思える。道形はしっかりとしており、心配はない。しかし深い山に入った印象が強い。熊がいつ顔を出してもオカシクナイ。ブナなどの広葉樹林の中をたどるが、突然岩場が現れ、松が生えている小山にたどり着いた。ここが松森だった。展望も無く、静かな小ピークである。

この先もブナの森は続く。大きなトチノキも見られる。道は緩い下り道になっていく。ブナの大木は時々現れるだけである。遊歩道のようなものが近くなるとイタヤカエデ、ミズナラ、サワグルミなども多く見られる。やがて長沼となり、水の流れが美しい。大きな蔦沼は、今までたどったコースに比べると観光客が多い。ゴールの蔦温泉までは近い。

コースタイム：仙人橋（1時間15分）赤沼（50分）松森（1時間30分）蔦沼（10分）蔦温泉



ブナに囲まれた赤沼

46) 十和田山

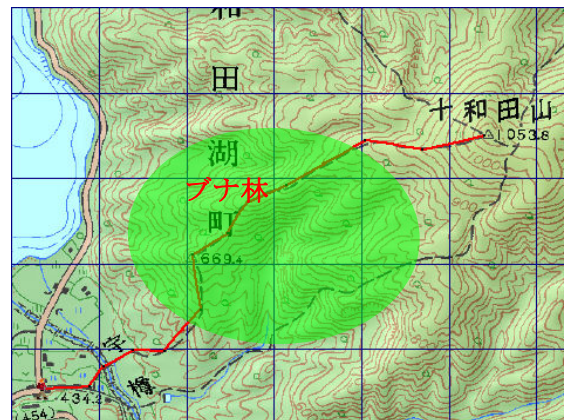
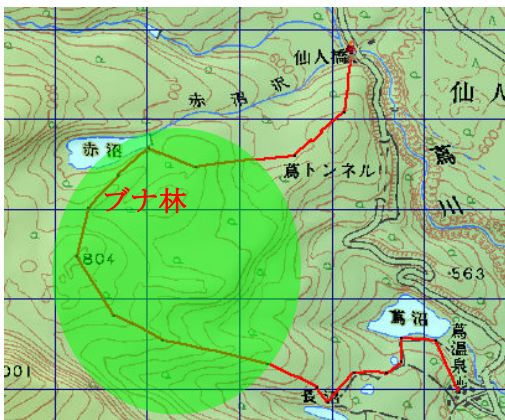
十和田湖の東側にそびえるブナの山。名前も十和田山。隣には十和利山もある。取り付きは民家の脇で、挨拶をして通る。その奥のバラ園を突っ切り小さな登山道標にしたがって森の中に入る。最初にサワグルミ、登りに差し掛かるとトチノキ、イタヤカエデ、ミズナラ、ヤマモミジ、ホオノキ、ハリギリそしてブナと多彩な森が続く。登ると、どんどんブナの大きな木が現れる。途中、登りが一服して緩やかな尾根になると、ブナは美しく輝いている。木々の間からは十和田湖が見えてもよさそうだが、意外に木々が邪魔をしてはっきりとは見えない。

ブナが矮小化してくると、足元には笹が繁茂し、しかも道が深く掘られて、靴がやっと入るような登山道になる。その上、急坂で、ガードレールの中を歩いているようで苦しい。後方が開けて湖が見え出すと、イチイが現れる。すると間もなく山頂到着となった。山頂からは大展望が得られる。南八甲田を始め、十和利山、戸来岳などが間近に望まれる。子の口への登山道は未整備なようで、往路を戻った。

コースタイム：宇樽部（2時間50分）山頂（2時間10分）宇樽部



ブナにツキヨタケ・十和田山



オオバクロモジ (*Lindera umbellata* var. *membranacea* クスノキ科クロモジ属)

山地に植生する落葉低木のクロモジの寒冷地型で、東北、北海道の多雪地帯に分布する。雌雄異株。クリ、コナラ林からコメツガ林まで植生範囲は広いが、ブナ-オオバクロモジ群集と呼ばれる森林区分があるようにブナ林の重要な標徴種である。標徴種というのは、ブナの森を構成する植物の代表種であることを意味する。

葉は互生し、形は細長い楕円形で先はとがる。クロモジよりも大型で葉身長が長い。展葉初期の若葉の時期は毛があるが、間もなく脱落し、成葉化するにつれて葉の表面は光沢を帯びてくる。葉脈は主脈と側脈が明瞭である。クロモジは基部が3行脈状である。花は腋性で5,6枚の葉の基部に10輪前後の小花を叢状につける(散形花序)。ガクはなく花弁にあたる花皮片は6枚で花色は黄白色。雄花では9個の雄しべを備え、雌しべは退化している。雌花は退化した9個の仮雄しべを持つ。開花期は雄株の方が早い。また雄株の方が花芽を多く着生しやすい。これらの仕組みはいずれも確実に後継世代を確保するための繁殖戦略である。開花と葉の展葉は同時期で萌芽期のオオバクロモジの株は花と葉が一体となって太陽光を抱え込み、枝の先端に灯りを燈したようなシンボリックな姿を呈する。



森の観察を始めた頃、早春の森で、最初に萌芽期の樹木の姿が美しいと思ったのがオオバクロモジで私は、毎年この花を備えたオオバクロモジの株を見るのを楽しみにしている。オオバクロモジは香木でもあり、葉を揉むとやさしい香りが漂う。枝も折ると同様に芳香を放つ。

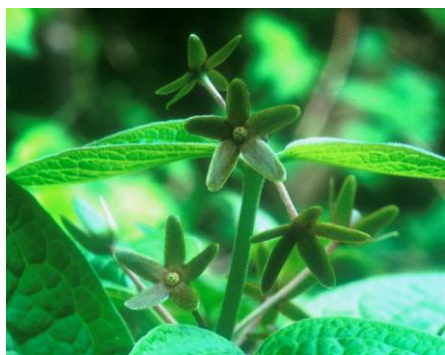
タチガシワ (*Cynanchum magnificum* ガガイモ科カモメヅル属)

落葉広葉樹林のやや湿った林床に植生する多年草。吾妻・安達太良連峰では極めて稀な植物と思われ、私は吾妻山麓の1箇所ではしか植生を確認していないが、安達太良山麓にも植生しているようである。いずれにしてもタチガシワの分布特性は太平洋型なのでこれらの山域が本県の北西限ではないかと思われる。

初めて見たときは、茎頂部に群れているものが花の一種であると感じてしばらくかかった。花の色合いと言い、その姿・形と言い、極めつけの個性派である。草丈は30~50cm程度で、茎の先端に対生した大きな葉が4枚開き、その中央部から叢状に緑がかった紫色の小花を多数上向きに咲かせる。その姿はシンプルで奇抜。一度見たらまず忘れることはないだろう。



花の姿は花びららしきものが5枚あるだけで雄しべらしきものも雌しべらしきものも見当たらない。中央部に5区分された幾何学模様のボタンのような粒がついているだけである。このボタンのようなものを良く見ると開きかけた花のような姿をしており、ボタンの外側の5つの花弁のようなものは副花冠と呼ばれる器官でその内側に黄白色の5つの扁平な粒が緑色の柱にくっついているようにも見える。これは雄しべと雌しべが合着したもので「ずい柱」と呼ばれるもの。このような花の構造はガガイモ科特有のものである。開花期は春の花が一通り咲き終えた初夏の頃である。



なお種小名の *magnificum* は壮麗を意味しているが、初夏の光を反射した姿はきらきらしていて不思議ときらびやかである。

第 88 回自然観察会案内：仁田沼・厳冬期の雪上観察会

日時：2月4日（日）8：00～15：00

集合場所 四季の里交差点正面入口駐車場 集合時間 8：00 参加定員 20名

内容 冬の仁田沼を散策し、雪上に残されたフィールドサインや広葉樹の冬の姿を楽しみます。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、冬季歩行用具（スノーシュー、カンジキ、スキー）

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代（300円）

申し込み：2月3日（土）まで

参加申込先：高橋淳一（TEL 024-593-1990）または佐藤守（TEL 024-593-0188）

電話またはメールにて申し込みください。（電話申込はいずれも夜間7時～9時でお願いします）

2007年度「高山の原生林を守る会」自然観察会計画

2007年度は、会設立20周年を記念して「高山」周辺を中心とした観察会とします。

通算回数	期日	場所	定員	内容	担当
第88回	2月4日（日）	仁田沼	20名	厳冬期の雪上観察会	高橋
第89回	4月22日（日）	鳥子平～高山	20名	針葉樹林の雪上観察会	佐藤
第90回	6月2日（土）	龍ヶ岳	-	植林とブナの森散策	高橋
第91回	7月1日（日）	西大巔	20名	登山道調査とロープ補修	高橋
第92回	8月26日（日）	幕滝～高山	20名	幕川周辺のブナ林観察会	山内
第93回	10月21日（日）	高山・的場川	20名	紅葉観察会（芋煮会付）	奥田
第94回	11月25日（日）	高山南山麓	30名	大ブナ観察と総会（土湯温泉）	鈴木

2007年カタクリの会奥羽自然観察会計画（1月～6月）

月日	回数	自然観察会のテーマ	観察地
1月21日（日）	193	雪と遊ぼう	峠山
2月18日（日）	194	雪の自然観察	雪国文化研究所
3月18日（日）	195	春を見つけに行こう	七内
4月22日（日）	196	カタクリの里歩き	廻戸周辺
5月13日（日）	197	夏の渡り鳥（東北緑の回廊一斉観察会参加）	白木峠
6月3日（日）	198	新緑のブナの森（東北緑の回廊一斉観察会参加）	下前笹峠

* カタクリの会は西和賀町で、自然観察会開催を目的とした会です。

* 会則、会費はなく誰でも自由に参加できますが、各観察会の一ヶ月前から電話でのみ受付です。

* カタクリ通信を偶数月に発行いたしてあり、希望者には年間千円で送付致します。

（郵便振込みをご利用ください…02350-5-38765 加人者名…カタクリの会）

カタクリの会連絡先：郵便番号 029-5512 和賀郡西和賀町川尻 41-72-15 電話&FAX0197(82)3601 代表：瀬川強

新年度の会費納入をお願いします：郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

【編集後記】 ■高山山麓の塩の川右岸の崩壊地帯を調査した高橋氏から送信された現場写真を見た。■その状況は、20年前に私が、撮影した的場川支沢の崩壊地と相似していた。崩壊した岩の上に細い広葉樹類が載っているものである。的場川支沢は以前に自然林が伐採された一帯に沿って崩壊したものであったが、塩の川の場合も同様のケースである。■一旦、破壊された自然を回復することはきわめて困難なことを今回の崩壊は教えている。崩壊した母岩の上を薄い土層が被っているだけの高山の地層の状況は20年前と変わらないのである。自然のタイムスケールを侮ってはならない（MS記）。

「高山」高山の原生林を守る会会報 第59号 2006年12月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>

代表連絡先：高橋淳一 Phone 024-593-1990（夜間7時～9時）

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費（500円）を添えて上記まで

編集：佐藤・奥田・鈴木